

参考様式 6（第 7 条関係・公表用）

提出された意見等の概要及び提出された意見等に対する対応

政策等の案の名称：宮城県美里町中学校再編整備基本構想（案）

№	提出された意見等の概要	対 応		修 正 内 容 (修正したとき)
		採用有無	理 由	
	この基本構想には建設場所についての記述がありませんが、教育委員会や議会・住民説明会等に於いて、具体的な場所が示されていますので、それについて意見を述べさせていただきます。 私は町づくりの視点からみて、大口団地と陸羽東線の間の農地が最適地と考えます。 理由として下記の 7 点を挙げます。 ① 美里町の町づくりの視点から（新市街地形成） 「本小牛田地区と駅前地を接続させる町づくり」は、旧小牛田町における町づくりの大きな課題でした。合併した美里町においてもその課題は引き継いでいると思います。 そのような意味で今回の中学校建設は大	無	今回のパブリックコメントの対象となっております「宮城県美里町中学校再編整備基本構想（案）」には、①現在の 3 中学校を 1 校に再編する、②再編後の学校施設を新たに建設する、③少人数学級を導入する、④地域に開かれた学校運営を行う、これら中学校の再編に向けた 4 つの基本的な方向性を示しております。 提出されました御意見の中にもありますように具体的な場所については含まれておりません。今後、技術的な調査等を踏まえて、基本計画の中でお示しをしていく考えです。 今回の「宮城県美里町中学校再編	

きなチャンスです。 小牛田駅の西側農地に統合中学校が建設されれば、今後、その周辺は住宅地として需要が高まります。（駅東区画整理のような事業や、民間の開発も考えられます。） 統合中学校が起爆剤（核）となる新市街地が形成され、町の活性化に繋がります。 一方、駅東に統合中学校が出来ても、その周辺は優良農地であるため、土地利用上の規制が厳しくて将来における新たな開発は不可能です。 ② 教育環境の視点から 小牛田駅の西側周辺には、小牛田保育所・こごた幼稚園・小牛田小学校・小牛田農林高校が散在しています（半径1km以内）。これら教育施設と連携した教育が可能です。 また、美里町役場・文化会館・図書館・トレーニングセンター・野球場・歴史資料館等、公共施設が散在しています（半径1km以内）。特に図書館や文化会館・ト	整備基本構想（案）」についてのパブリックコメントは、この基本構想が良いかどうかをお聴きするものであります。提出された御意見を「宮城県美里町中学校再編整備基本構想（案）」に採用することはできませんので、御理解願います。 提出されました御意見は、建設場所について詳細に分析され、考察されたものと受け止めており、貴重な御意見であると考えております。今後、建設場所の適地選定に当たって、検討の参考にさせていただきます。 また、適地選定に当たっては、住民懇談会や意見交換会、パブリックコメント等、住民の皆様から御意見をお聴きする機会を設けてまいりますので、今回の御意見をその機会に再度提出をしていただければ幸いです。	
--	--	--

レーニングセンター・野球場は勉強やスポーツ等、教育と密接な施設であります。それら施設が歩いて行ける距離内にあるということは、その施設を有効に利用でき、子供達の学力向上や体力向上に寄与するものと思います。 ③ 土地利用計画の視点から 駅東地域は、農業振興計画の区域内で圃場整備された優良農地の田園がひろがっています。 一方、駅西は圃場整備されていない場所です。美里町の都市計画に基づく土地利用計画を見ると駅西側の場所は本小牛田と駅前地区の住宅地に囲まれている場所であり、開発に適した場所と見るのが妥当です。駅東地区の優良農地は保全すべきで、中学校建設場所は駅西の農地と考えるのが自然です。 また大崎地方全体が世界農業遺産を目指していますが、その意味からも駅東の圃場整備された優良農地は保全すべきと考えます。美田が広がる中の一区画を転用することに違和感を覚えます。			
---	--	--	--

④ 位置的な視点と通学の視点から 地図上で見れば町の中心は小牛田地域と南郷地域の境に見えます。 しかし、集落分布や人口分布から見た場合は小牛田駅西側周辺が中心と考えます。 子供たちの通学について、駅西農地に建設するのであれば、現在の小牛田中学校から、東に1km程度の移動なので、小牛田中学校通学区域内の中埴や北浦・下小牛田の生徒でも自転車通学が可能です。青生地区もこれまでの不動堂中学校と同程度の通学距離でしょう。不動堂地区（志賀町・峯山・不動堂4区・5区・6区・7区）も化粧坂陸橋を通る方法で、自転車通学が可能と思われます。駅東地区は自由通路を利用した徒歩通学が適切だと思います。南郷地域はスクールバスが必要と思われます。 ●三十軒踏切の危険性 教育委員会では6km以内は徒歩か自転車通学と考えていますが、駅東に中学校が出来た場合、北浦中組・横埴・新田・			
--	--	--	--

	起谷・本小牛田地区・彫堂・駒米・笹館・大口・駅前3地区等は自転車通学か徒歩通学になり、三十軒踏切に集中的に自転車や徒歩通学生があふれる恐れがあります。 この踏切は東北本線と陸羽東線が通っているため、距離が約30mあります。幅員は車1台がやっと通れる3m位と思われます。（車が通っている間は歩行者・自転車も踏切手前で待っていなければなりません）さらにこの踏切は遮断機が降りるとなかなか上がらない踏切です。（開かずの踏切）。始業時間に間に合わないために遮断機が降りた状態で線路に入る恐れもあります。 この踏切は改良しなければいけないと思いますが、小牛田駅に近いので信号の地下ケーブル等が埋設されていたり、出来川に隣接しており、拡張・改良することが技術的に可能なのか疑問です。また可能だとしても工事に関する費用の町の負担は膨大なものになります。（新たな負担が発生）踏切周辺の町道は、カーブが			
--	---	--	--	--

	多く、幅員も多く、歩道もない状態です。さらに町道の一部は出来川に接しており、満水時は危険です。 以上のとおり、三十軒踏切はあまりにも危険であり、周辺町道は問題が多いので通学路から外すべきと考えます。（これまでも通学路として認定していないし、実際に子供達も通学していません） ○駅西に中学校が出来た場合の通学シミュレーション ※駅西側 本小牛田地区は自転車（遠くても 4.5 km以内） 駅前 3 区・駒米・彫堂・笹館・大口は徒歩（2 km以内） 青生地区は自転車（遠くても 3.5 km） 起谷・新田・横埜・平針地区は自転車（3.5 km以内） 北浦・関根・谷地地区は自転車（遠くても 6 km以内） 中埜地区は自転車（遠くても 6 km以内） ※駅東側（三十軒踏切は使わない）			
--	---	--	--	--

	駅東地区は自由通路を利用した徒歩（2 km以内） 下小牛田地区は自転車（遠くても 4.5 km以内） 志賀町・不動堂 4 区・峯山・不動堂 5 区・6 区・7 区は化粧坂こ線橋を利用した自転車（遠くても 4 km以内） 南郷地域はスクールバス（和多田沼・福ヶ袋は自転車通学可能距離？） ⑤ 防災の視点から 駅東の計画候補地は、出来川に隣接しています。出来川の氾濫は懸念されないのでしょうか。 （最近の自然災害は想定外が多くなっています。出来川も氾濫しないとはいいきれません。） 学校は避難場所として位置づけられますが、学校が水害に遭わなくとも周辺が水没すれば道路が寸断され、避難所として機能しなくなってしまう。 一方、駅西に統合中学校が出来れば小牛田駅西側の住民の一括した避難施設としての役割が担えます。また、役場等の			
--	--	--	--	--

	公共施設にも近く、災害時に連携した活用が期待できます。 ⑥ 交通アクセスとインフラの視点から 駅西の場所は、国道 108 号線や県道鹿島台高清水線等の主要幹線道に隣接し J R 小牛田駅にも近く交通アクセスからみて、これ以上の場所はないと思います。ウジェスーパー近くの陸羽東線踏切も近く改良されると聞いています。歩道も整備されています。 また上水道は県道や隣接する町道に埋設されています。下水道・電気についても同様です。新たなライフラインの整備は必要ありません。小牛田駅東は、これらの点において未整備であり、上水道排水管や下水道管等の新たなインフラ整備が必要になります。新たな費用が発生します。 ⑦ 土地取得や土地造成の視点から 駅西の提案地は、面積的には十分必要な面積が確保できる地域です。（正方形に近い形状が確保でき、400m公認トラックも可能です。）また、将来の小学校建設に			
--	--	--	--	--

	も隣接農地で十分確保できる面積があります。（現在の小牛田小学校の敷地利用も考えられます。） 駅東は、形状や面積、地盤は大丈夫なのでしょうか。 小牛田駅東地区は全体的に地盤が弱い場所です。駅東区画整理事業の工法では、下部に砂の層を作ったり、土を計画高より余計盛って時間をかけ自然転圧し、その後上層部を削り取り、計画高さにするなど、様々な工法を駆使しています。駅東に中学校敷地を造成する場合はそのような工法を検討しなければならないと予想されます。それは造成費用の増額や、自然転圧時間に伴う造成工期が長くなることを意味します。			
--	---	--	--	--